

【タイトル】健康講演会

【担当委員会名】厚生委員会

【日時】平成22年10月12日(火)PM3:00～4:30

【場所】アンフェリシオン

【演題】「がんの克服と天寿がん」

【講師】北川 知行 氏

(財) 癌研究会癌研究所名誉所長



【概要】会員約60名が参加して行われた。

講演では、がんの原因や予防について説明された。北川氏は「天寿がん」の定義を確立された方で、その定義は「さしたる苦痛もなしに、あたかも天寿を全うしたかのように人を死に導く超高齢者のがん」である。

北川氏は約40年前に東京大学で助手の頃に、ある超高齢者の病理解剖を手がけた。その方は生来の健康体で、98歳になってから4ヶ月で死亡した。徐々に食欲がなくなり痩せてきて、全く痛みや苦しみもなく眠るように息を引きとった。



生前、医師に「自分は希にみる健康体であるから、死んだら解剖をして、後生に役立てて欲しい」と遺言を残しており、北川氏が解剖をしたところ、胃に大きながんあり、食道から胃の入る道をだんだん狭めていったので、食欲が減って亡くなった。このような症例は典型的な天寿がんであるという。

最後に北川氏は天寿がんについて大事なことは、①人は天寿を授かっていると考えよう②安らかに天寿を全うすることは祝福されるべきである③超高齢者のがん死は人の一生の自然な終焉のひとつのパターンであるとして、苦痛もない天寿がんなら死も悪くないと考えようと講演を結んだ。